

明治・大正・昭和時代

明治時代

1901年(明治34)

鳴池記念碑建立



〈鳴池記念碑〉

明治34年(1901)建立。県道大久保江井島線の江井ヶ島から約1km北の皿池の西側にある。鳴池は松陰新田の北部にあり、森田と和坂2村の共有の灌漑用池であった。文政8年(1825)、水不足に悩んでいた東江井、西江井、東嶋の三か村が、鳴池の水を自分たちの田に水を引く計画を立てた。三か村の労働力により和坂村の沢池(さわのいけ・沢の池とも)を改修し、代わりに鳴池の水を貰うと言うものだった。その結果、鳴池の水はここに流れるようになった。

先人を讃えて後世に伝えるためにいきさつを記録した碑を建てた。

1905年(明治38)

明石江井島郵便局開局

1908年(明治41)

江井島尋常高等小学校と改称

大正時代

1919年(大正8)

江井ヶ島酒造ウィスキーの製造免許取得

1923年(大正12)

神戸姫路電気鉄道8月開業

江井ヶ島駅・江井ヶ島西口駅ができる。

(江井ヶ島西口駅は昭和19年4月1日に現在の西江井ヶ島駅となる)

〈山陽電車・江井ヶ島駅〉

神戸姫路電気鉄道が大正12年(1923)8月に開業。



〈山陽電車・西江井ヶ島駅〉

開業当時は「江井ヶ島西口」と称し昭和19年(1944)4月1日に現在の駅名になる。

開業時には、貨物の引き込み線があり、駅前には運送会社が店を構えていた。1960年頃に廃止された。

昭和時代

1935年(昭和10)

延命寺再建



1940年(昭和15)

行基の碑建立

1949年(昭和24)

屏風浦漁業協同組合設立(現 江井ヶ島漁協)

1951年(昭和26)

明石市立江井島小学校と改称

1953年(昭和28)

明石商業高校が望海中学校で授業開始

1954年(昭和29)

明石のり養殖開始

〈明石のり〉

明石鯛、明石タコに続く第3のブランドの明石のりは、昭和29年ごろから養殖が開始された。今では、全国ブランドとなり、佐賀県に次いで兵庫県が第2位の位置を占めている。

過去には手で摘み取っていたが、今は「のりひび」と呼ばれる海苔網を付着生育させる網の中を「もぐり船」が、くぐって採取する方法で効率を高めている。

〈明石瓦〉

江井ヶ島の土は良質の粘土土に恵まれて、東隣りの八木地域と共に瓦の生産が盛んな土地であった。

明石で瓦が作られたのは、いつごろかはっきりしないが、法隆寺を改修した奈良の瓦大工の橘吉重の幼名の彦次郎名が、刻まれていたため話題になった。西島の如法寺を改築した大工も、橘景正と言う記録があり、瓦師たちがここに定住して、瓦造りを始めたのではないかとされている。

ピークの昭和30年頃にあった、明石瓦の窯元は多くの瓦業者の中で、江井島には東江16、西江4、西島3(内森1)、柳井2で、明石市産業振興財団によると、この頃の年間生産は3,000万枚、良質の粘土を使いきり、昭和30年(1955)中頃より40年(1965)代に至っては、大半の瓦業者は姿を消した。



小学校(昭和13年)
職員の背景に機雷がみえる



日本のできごと

《明治時代》

1904年(明治37)

●日露戦争

《大正時代》

1912年(大正元)

●明治天皇が没し大正となる

1914年(大正3)

●第一次世界大戦に参戦

1923年(大正12)

●関東大震災

《昭和時代》

1926年(昭和元)

●大正天皇が没し昭和となる

1927年(昭和2)

●金融恐慌

1931年(昭和6)

●満州事变

1932年(昭和7)

●五・一五事件

1936年(昭和11)

●二・二六事件

1937年(昭和12)

●日中戦争はじまる

1940年(昭和15)

●日・独・伊三国同盟

1941年(昭和16)

●太平洋戦争はじまる

1945年(昭和20)

●8月 6日 広島原子爆弾投下

●8月 9日 長崎原子爆弾投下

●8月14日 ポツダム宣言

●8月15日 終戦のラジオ放送

1951年(昭和26)

●日米安全保障条約



西江井住吉神社の南海岸より東をみる